

第4回夜間中学設置検討委員会 議事録（概要）

日 時：令和6年1月29日（月）15時00分～17時00分

場 所：三重県庁7階 教育委員室

出席者：夜間中学設置検討委員会委員 9名（1名欠席）

県教育委員会事務局：井ノ口次長

小中学校教育課 早田課長、前田班長、丸野

【敬称略】

■外国籍の生徒（特に学齢期）の受入れ・支援について

- 学齢期でブラジル人学校に通っている生徒が、昼間の公立学校ではなく夜間中学に通いたいとなった場合、どのように対応するのか。レアケースであるかもしれないが、外国籍の児童生徒が多い三重県では想定しておく必要がある。

- 県内にはブラジル人学校が2ヶ所ある（四日市・鈴鹿）。家庭の経済状況により公立の学校に移る生徒もいる。ブラジル人学校に通いながら夜間中学に通う人は少ないと思うが、ブラジル人学校を辞めた後にもう一度勉強したいとなった場合に夜間中学を選ぶ人はいると思う。
日本語が全く話せずに来日する方も多い。夜間中学では、個々の日本語能力を把握し、適切な指導に結び付けてほしい。

- 外国籍の生徒も15歳以下だとそもそも夜間中学のコースに入れないのではないか。

- 外国籍の生徒と日本人の生徒が共に学ぶことで、互いを知ることが大切だと思う。

■夜間中学の周知・広報について

- 自校の教員には令和7年4月に夜間中学ができることは伝えたが、イメージができていない教員が多いと感じた。なるべく早くから周知をしていく必要がある。

- 令和6年度の職員会議や研修に本委員会の委員を派遣するなどして、夜間中学について学んでもらうのもいいと思う。周知のために具体的に動いていく必要がある。

- 現場の感覚として、少しずつ関心は広がっていると感じるが、附属中などのような人事交流をイメージしている教員も少なからずいる。方針が確定し次第、広く周知を図っていく必要があり、こういう学校ができるということが色んな人に届けばいいと思う。

- マスコミを活用し広く報道してもらうことも必要である。

- 引きこもり支援をする中で、引きこもりの人に対する理解が十分ではないと感じることがある。夜間中学も具体的にイメージされないと、色んな憶測を生んでしまう可能性があることから、夜間中学について知ってもらうことは大切である。
- 外国人に対して文章で説明しても理解は難しい。動画を作成してくれると伝わりやすい。
- 簡易的なものでもいいので、多言語で広報を行ってほしい。教職員向けの研修においても、外国人の状況や現状などについて触れてもらいたい。

■夜間中学における人員の確保について

- スクールサポートスタッフや学習指導員を配置するのは大事だが、人材を見つけるのは困難である。
- 事務員に対する特殊勤務手当や教職員の通勤手当など、手当の面についてもしっかり議論していく必要がある。これらを充実させていけば、教職員は安心して夜間中学を希望することができるのではないか。
- 人員体制は、ただたくさんの人員が確保されればいいというものではなく、個々の教員の思いや志が重要である。
- スクールサポーターの募集を見ても、どういう人材を求めているのかが求人からでは分からないことが多い。夜間中学で募集する際はそこを明確にしてほしい。
- 初期日本語指導を教員に担わせるのは正直厳しい。日本語教育の専門家を採用していくべきではないか。
- 小中学校教育課には、人材確保に関して検討委員会が出た意見などを人事担当部署に伝えてほしい。

■三重県立夜間中学開校に向けて

- みえ夢学園高校の敷地内に開校するという事で、教職員も生徒も期待している。令和7年度の開校に向けては、令和6年度の準備組織が非常に重要となる。開校やその後の運営をスムーズに行うためにもしっかりとした体制を整える必要がある。
- ぜひ夜間中学に入ってくる人たちの声や思いを聞き取って形にしてほしい。外部の力とどれだけ連携できるかが鍵である。外部人材を多用すれば学校が変わる。夜間中学も色んな人に参画してほしい。

- 必要としている人に夜間中学のことが届いてほしい。夜間中学だけで完結させるのではなく、福祉分野をはじめ色々なところとつながって、切れ目のない支援ができればいいと思う。
- 外国籍の方は経済的に厳しい人が多い。夜間中学では、担任やスクールソーシャルワーカー、通訳のほか、外部の団体ともつながりができてほしい。
- 夜間中学では部活もしてほしい。通信制では部活の選択肢が狭く、社会人サークルに入っているが劣等感を感じることもある。夜間中学に通う生徒たちが、夜間中学に通うことで全日制の生徒に対する劣等感が少しでも減ればいいなと思う。仲間とともに同じ目標に向かうというのは学校でしか経験できない。
- 授業を行う教員以外の教職員が、授業に参加できる雰囲気作りが大切である。事務職員も含め、授業風景をみたり、参加したりすることで色んな気づきを得ることができる。また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの支援員もただ生徒が来るのを待つだけでなく、授業に参加していくことが大切だと思う。

さらには、夜間中学が開校した後も、委員会のメンバーなどが協議会という形で継続的に組織運営に関わっていくのがよい。事務局と現場の教員だけで対応していくのは難しい。
- いわゆる学校文化というか、皆で一つのことを共有することで得られるものもある。先進的な県の実践を参考にしながら、具体的な教育内容を描いていくことになるが、ニーズをふまえながら柔軟に行っていただければと思う。
- 外国人を受入れていくにあたっては、外国人問題に詳しい弁護士も見つけておいた方がいい。
- 明治から続いているいわゆる日本型学校教育は破綻していると思う。一斉授業のあり方は見直さなければならない。夜間中学こそ個別最適な学びを実現していかなければならないと思う。三重の夜間中学が、三重県の学校のフラグシップになってほしい。

以 上